1990年代のオーストリアにおける観光地域の変化

― 観光客数と宿泊施設からみた分析 ―

呉 羽 正 昭（筑波大学地球科学系）

1．はじめに

1）研究目的

オーストリアにおいては，1955年頃から観光大量化時代が始まった。その際，多くの地域で観光客数が増大すると同時に，多くの観光開発も進んだ。しかしながら，1970年代になると多くの観光地域において，観光客数は飽和状態になった。もちろん観光行動には季節差があり，山地での避暑や湖岸での滞在を中心とした夏季観光についてそうした飽和状態が先に出現した。一方，スキー観光を中心とした冬季観光では，1980年代まで観光客数の発展が続き，1990年代になってようやく飽和状態が訪れたといえよう。

本研究は，1990年代に入り，オーストリアにおいて夏季・冬季ともに飽和状態になった観光についてその地域的特徴を検討する。しかしながらオーストリアの観光といっても，その中身は非常に複雑である。したがって本研究では，オーストリアにおける1990年代の観光地域の変化について，観光客数および宿泊施設の点から明らかにする。

オーストリアの観光に関する地理学的研究には多くの蓄積がある。しかしながら，オーストリア一国という地域スケールで観光地域の特徴を明らかにした研究は限られている。Lichtenberger（1976）は，宿泊数，観光指数（宿泊数／居住人口），小規模な宿泊施設の卓越度，外国人宿泊数の割合，宿泊料金などを指標として，オーストリアにおける観光地域の発展の地域差を分析した。また，Zimmermann（1985；1987）は，Lichtenberger の結果に宿泊客の季節性や滞在期間を加味し，新たな観光地域の変化を考慮しつつ研究を進めた。Zimmermann はその後，ヨーロッパ全体の観光に関する変化を扱った書籍の中で，より新しい変化を考慮してオーストリアにおける観光地域の特徴についてまとめている（ツィンマーマン，1992；Zimmermann，1998）。また，Zimmermann（1995）は，オーストリアの観光に関する近年の全国的な特徴を述べた。さらに，オーストリア国土の大半が属するアルプスに関する観光の展開について言及した研究もあり，Haimayer（1984）はその代表例である。

また，オーストリア全国の観光地域の類型についての研究もみられる。日本人では，浮田（2000）が，観光地域の季節性と立地条件を考慮して，「都市型」，「温泉型」，「夏型」，「夏・冬型」および「冬型」の5類型に分類し，その分布を論じた。Zimmermann（1988）は，観光指数，宿泊数とその発展，外国人の割合などを変数として因子分析を行い，オーストリアの観光地域を類型化した。また Hofmayer und Jülg（1989）は，宿泊数の月別変動を指標としてクラスター分析を行い，観光地域の類型化を行っている。

一方，オーストリア国内において州や地域単位で観光の発展を論じた研究は非常に多い。州レベルで分析を行った研究としては，Zimmermann（1984）によるケルンテン州に関するもの，Strenzel（1988）によるザルツブルク州に関するもの，Haimayer（1988）によるチロル州に関するもの，さらに Eder（1991）によるシュタイヤーマルク州に関するものなどがある。

しかしながら，1990年以降のオーストリアにおける観光地域の変化を扱った研究は少ない。上記のなかでも，Zimmermann（1998）と浮田（2000）があるが，これに加えて Zimmermann（1994）がケルンテン州における夏季観光の衰退について概括的に論じたにすぎない。

また，オーストリアの観光の全体的な特徴について，日本での発表が非常に少ないことも事実である。総合的に記述されたものとしては，前述の浮田（2000）とツィンマーマン（1992）のみである。ただし，観光に関するいくつかのトピックについて分析した論攷は存在し，たとえば，黒岩（1996）はオーストリアにおける観光産業の重要性を強調し，山村（1993）は温泉地の地域的展開を論じた。また，東欧改革後，中央ヨー

ロッパ東部諸国からオーストリアへの観光客の増加について分析した呉羽（1997）もある。またルーラル・ツーリズムに関しては，横山（1999），呉羽（2001）のほか，池永の一連の研究成果（池永，1999；2000a；2000b；2001；2002）がある。スキー観光については，Kureha（1995）が1990年頃までのオーストリアのスキーリゾートの発展過程を日本のそれと比較しつつ分析した。

このように，1990年代のオーストリアにおける観光地域の変化について総合的にとらえた研究は，Zimmermann による一連の研究が該当するが，日本ではほとんど紹介されていない。また，1990年代という停滞期における観光地域の動向を分析することで，今後の展望がある程度明らかになると考えられる。

2）分析資料

本研究で用いた資料は『Tourismus in Österreich（オーストリアにおける観光）』である。この統計は年刊で，1995年以前は Fremdenverkehr in Österreich の名称であった。当該資料は，オーストリアの観光に関するさまざまな指標からなる統計書として，オーストリア統計局 Statistik Austria（2001年よりの名称，それ以前は Österreichisches Statistisches Zentralamt）から発行されている。この統計書には大きく分けて観光客数についてのデータと，宿泊施設についてのデータが掲載されている。これらのさまざま数値は，ある程度の観光客が訪れる市町村（約1500）からの報告によって集計されている。観光客数については，全国で様式が統一された宿泊カードに基づいている。このカードは個々の宿泊施設に配られており，原則として宿泊者全員が記入しなければならない。記入項目は，宿泊者の氏名，生年月日，住所，国籍，同行者，到着日および出発日などである。宿泊客によって記入された用紙は，各市町村の役場や観光協会に相当する組織によってまとめられ，統計局に報告されている。宿泊施設に関しては，上記の各地方組織がその数値を算出している。

観光客数に関しては，宿泊者数と宿泊数があり，前者はある観光地に宿泊した人数であり，後者は宿泊者の延べ宿泊数である。この2つのデータが，出発国および時期（月，夏・冬半期，年）といったさまざまな指標によって表されている。ただし，年単位で得られるデータと，半期単位で得られるデータに差がある。また冬半期は2年にわたっているため，本稿においては，1989/90年や1999/2000年のように表現する。前者は1989年11月から1990年4月までを，後者は1999年11月から2000年4月までを示す。

オーストリアにおける宿泊施設は，大きく一般施設，休暇用住宅 Ferienwohnungen（後述）およびその他に分けられている。一般施設は，営業施設と小規模宿泊施設からなり，営業施設はベッド数が11以上であるのに対し，小規模宿泊施設ではその数が10以下となる。その他には，キャンプ場，療養所，ユースホステルなどが含まれる。それぞれの宿泊施設について，その施設数およびベッド数の統計がある。

こうした観光客数および宿泊施設について，それぞれの集計地域単位としては，国，州および市町村がある。しかし，『オーストリアにおける観光』では，市町村レベルで全てのデータが得られるわけではない。それらは，オーストリア統計局で入手することは可能であるが，データの量に応じた額で販売されている。

3）分析方法

本研究の分析は，オーストリアにおける観光地域に滞在する観光客数についてのもの，および観光地域における宿泊施設についてのものである。それぞれについて1990年代の変化を明らかにしていく。

観光客数については，第1に，宿泊客数と宿泊数の経年変化をみることによって1990年代の特徴を明らかにする。第2に，それと関連づけながら夏半期と冬半期の違いや地域的差異を明確にする。第3に宿泊客の居住地について，第4に宿泊客の滞在日数について検討する。

観光地域の変化に関しては宿泊施設を指標として取り上げる。本稿では，宿泊施設の施設数とベッド数について時系列変化を分析し，その地域的差異を明らかにする。

地域的分析の際の単位地域は，オーストリア，同国内の州 Land および郡 Bezirk とした。オーストリア国内には9つの州があり，また99の郡がある。第1図に州の境界図を示した。ただし，ウィーンWienは1つの州であり，かつ1つの郡ともなっている。

2．観光客数の変化

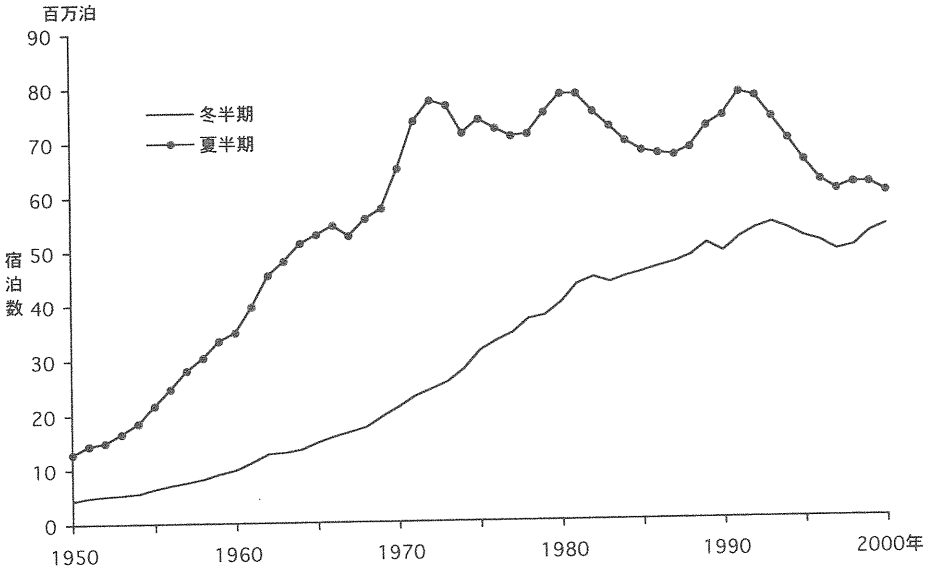
1）経年変化と季節変動の変化

第1図　オーストリアにおける州区分

第2図は，オーストリアにおける宿泊数の推移を示したものである。これによると，既に述べたように，夏半期（5～10月）については1950年の時点から急激な増加傾向を示し，1970年代前半まで続いた。しかしながら，その後は6千万から7千万泊前後で変動しているにすぎない。それに対して冬半期（11～4月）では，1950年代および1960年代では増加傾向にはあったものの，その程度は緩やかであった。しかし，1970年代に急激な増加を示し，1980年代においてもその傾向は継続していた。

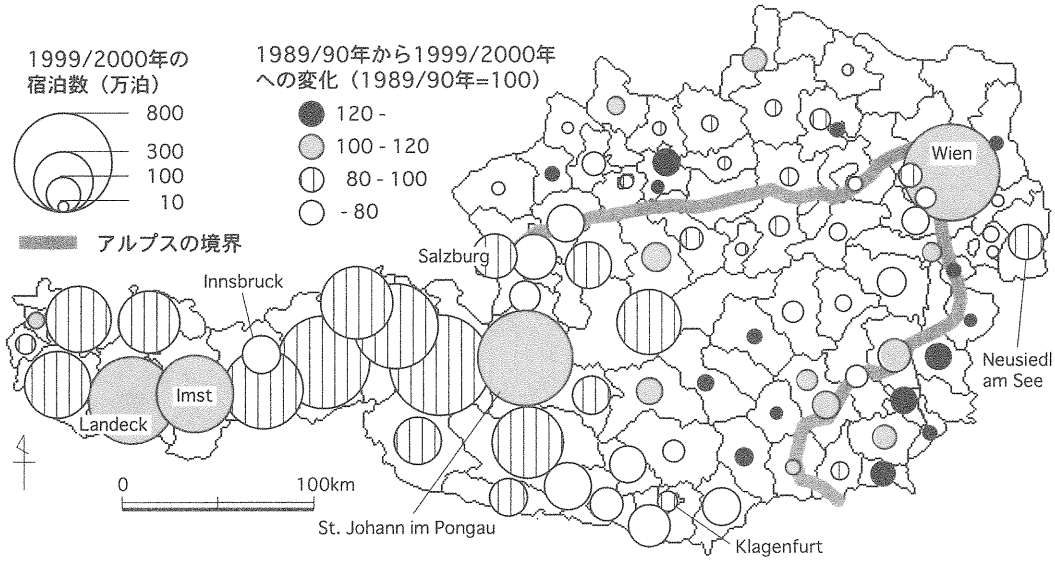
1990年代に注目すると，夏半期では1980年代後半に増加して8千万泊弱に達した宿泊数が，再び大きく減少し，2000年では6千万泊まで減少している。一方冬半期では，宿泊数は1992/93年に5400万泊でピークに達した。その後は一度減少傾向を示すものの，再び増加傾向を示し，1999/2000年では4900万泊に達している。すなわち，1990年代では，夏半期に大きな減少が目立ち，冬半期ではある程度宿泊数が維持されていることがわかる。

次に，上記の特徴を地域別に分析する。第3図は，2000年の宿泊数および1990年からの変化をオーストリア国内の郡別に示したものである。まず2000年における宿泊数の分布について検討する。オーストリアを東部と西部とに分けるとすると，西部で宿泊数が卓越す



第2図　オーストリアにおける宿泊数の推移（1950～2000年）

注：冬半期は表記年前年の11月から表記年4月まで，夏半期は表記年の5月から10月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*



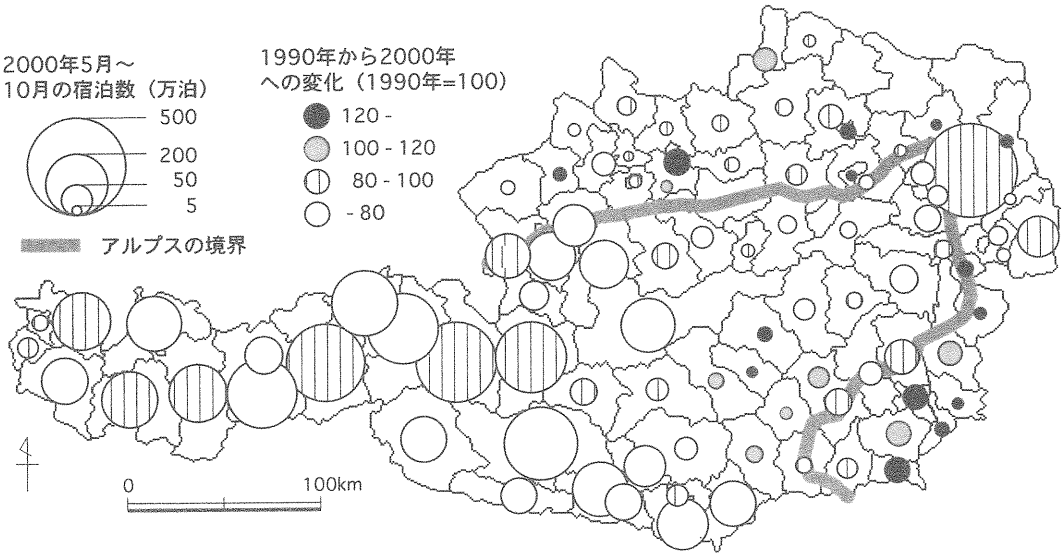
第3図　オーストリアにおける宿泊数の郡別変化（1989/90～1999/2000年）
注：宿泊数10万以上の郡のみ表記。1989/90年は1989年11月から1990年10月までを，
1999/2000年は1999年11月から2000年10月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*

る。そこでは，オーストリアのアルプス地域のなかでも標高が高く，夏季の避暑や冬季のスキーを中心として多くの宿泊客が滞在する。一方，東部では極端に少なく，例外は首都ウィーンおよび湖沼地域である。ウィーンは多くの歴史的遺産や文化的施設を有し，世界各国から多くの観光客が訪問している。湖沼地域には，ザルツブルク Salzburg 東部のザルツカマーグート Salzkammergut，クラーゲンフルト Klagenfurt を中心としたケルンテン Kärnten 州，ハンガリーと国境を接するブルゲンラント Burgenland 州ノイジードル・アム・ゼー Neusiedl am See 郡におけるノイジードラー湖 Neusiedler See の3か所が存在する。前2地域では，夏季を中心にやや多くの宿泊客が訪れるが，ノイジードラー湖ではそれほど多くない。

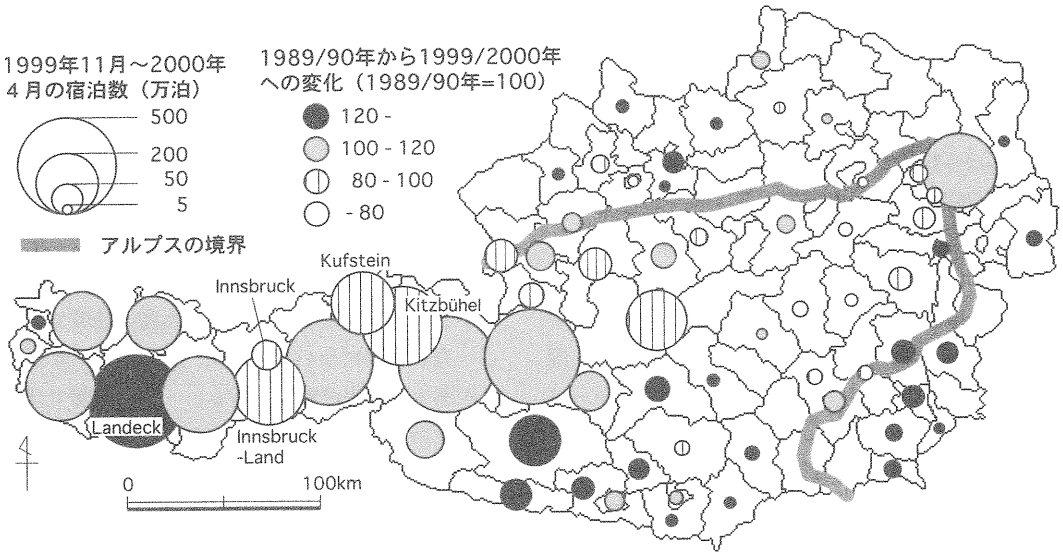
1990年代の宿泊数の変化を郡別にみると，大半の郡でその数を減少させている。宿泊数の増加率が大きい郡は，いずれもその宿泊数が少ない。オーストリア西部については，例外はチロル Tirol 州西部のイムスト Imst 郡およびランデック Landeck 郡とザルツブルク州南部のザンクト・ヨハン・イン・ポンガオ St. Johann im Pongau 郡である。いずれも宿泊数は冬半期に著しく集中している。一方オーストリア東部では，ウィーンでの増加が目立つ特徴である。その一方で2大湖沼地域では減少が著しい。

第4図と第5図は，半期別に宿泊数の分布を示したものである。第4図に示した夏半期では，通年の宿泊数の分布（第3図）とはやや異なり，オーストリア西部の卓越がそれほど顕著ではない。そこでは，冬半期にも多くの宿泊客が訪れるためである。夏半期においては，1990年から2000年にかけて，宿泊数の小規模な郡を除いて，全ての郡で減少がみられた。なかでも減少率が大きい地域は，先に挙げた湖沼地域である。

一方冬半期についてみると（第5図），オーストリア西部への集中が顕著である。一方，東部ではウィーンを除いてほとんど宿泊客が存在しない。また10年間の変化では，ほとんどの郡で増加していることが明らかである。とくに，前述したランデック郡での増加が目立つ。この郡には，ザンクト・アントン St. Anton am Arlberg やイシュグル Ischgl といった大規模なスキー場が存在する。一方，チロル州のなかでもキッツビューエル Kitzbühel 郡やクフシュタイン Kufstein 郡ではやや減少傾向にあるが，両郡における1989/90年から1999/2000年への減少指数は98ポイント前後である。一方，大規模なスキー場の少ないインスブルック市 Innsbruck とインスブルック・ラント Innsbruck-Land 郡では減少がやや大きい。このように，冬半期については，重要な観光資源であるスキー場の性格が観光客数の変動に大きく影響している。



第４図　オーストリアにおける夏半期宿泊数の郡別変化（1990～2000年）
注：宿泊数５万以上の郡のみ表記。各年ともに５月から10月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*



第５図　オーストリアにおける冬半期宿泊数の郡別変化（1989/90～1999/2000年）
注：宿泊数５万以上の郡のみ表記。1989/90年は1989年11月から1990年４月までを，
1999/2000年は1999年11月から2000年４月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*

２）観光客の居住地の変化

オーストリアにおいては，外国人観光客の卓越が大きな特徴である。その大半はドイツ人によって占められている。しかしながら近年，その傾向に変化が現れつつある。

第１表は，オーストリアにおける観光客がどの国から来ているかについてまとめたものである。本来ならばこの種の数値は年々変化するものであるが，ここでは紙幅の関係で1980年から５年おきに示した。宿泊数に注目すると，ドイツが最も多い。しかし，その割合は1980年には約55％であったものが，2000年では46％まで減少している。ほかの外国では，オランダがドイ

ツに次いでいるものの，これも減少傾向にある。同様にイギリス，ベルギーおよびフランスの減少もみられる。スイスやイタリアからの宿泊数はある程度維持されている。一方，「その他」の外国は増加傾向にあり，とくに1995年から2000年にかけての増加が著しい。これには東欧改革以後にみられた東欧諸国からの観光客の増加（呉羽，1997）が大きく影響している。このように宿泊数からみると，1990年から2000年にかけての大きな変化としてあげられるのは，外国人宿泊数が20％近く減少していることであるが，一方で，オーストリア人による宿泊は3千万泊前後と，ある程度維持されている。

次に宿泊客数に注目すると，宿泊数でみられたような減少はなく，全体ではやや増加している（第1表）。外国人全体では1800万人前後であるし，ドイツ人でも1千万人前後で，両者とも大きな減少ではない。さらにオーストリア人の場合は年々増加傾向にある。このように，宿泊客数には減少がみられず，一方で宿泊数に減少がみられる。すなわち，1人あたりの平均滞在日数が減少していることを意味している。これについては後述する。

観光客の出発地にみられる居住地構成には季節差も存在する。第2表は，1989年11月から1990年10月までおよび1999年11月から2000年10月までのそれぞれ12ヶ月間を冬半期と夏半期に分けて，観光客の居住地構成とその変化を表現したものである。

まず，宿泊数に注目すると，冬半期ではほとんどの出発国において増加がみられる。例外はイギリスで，過去10年間で宿泊数がほぼ半減している。それに対して，夏半期では，オーストリア人の宿泊数が増加し，外国人による宿泊数が減少している。とくに，宿泊数規模の大きなドイツとオランダの減少幅が著しく大きい。結果として夏半期の宿泊数に占めるオーストリア人の割合は3割を超えるようになっている。

次に宿泊客数では，既述のように全体として冬半期で増加し，夏半期ではやや減少を示す。冬半期では全体の傾向を反映し，ドイツやオランダからの宿泊客が増加している。また国内客も同様の傾向である。一方，イギリス，イタリア，フランスからの宿泊客の減少が目立っている。しかし，夏半期ではオーストリア人では増加がみられるものの，外国人による宿泊客数はいずれも大きく後退している。

こうした観光客の居住地の差異は，オーストリア国内の地域ごとに異なっている。第6図は郡別の宿泊数にみられる居住地構成を表したものである。一般に，オーストリアでは，東部でオーストリア人観光客が卓越し，西に向かうにつれて外国人観光客の割合が増加する。これは，東部において著名な観光資源が少なく，

第1表　オーストリアにおける宿泊客の居住地の推移（1980～2000年）

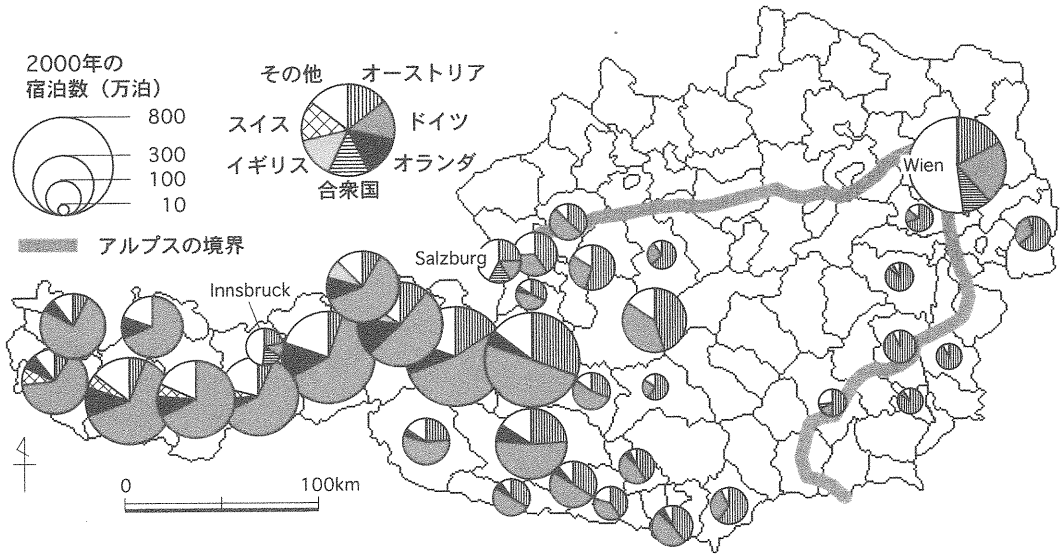
指標	年	合計	オーストリア	外国									
				小計	ドイツ	オランダ	スイス	イギリス	イタリア	ベルギー	合衆国	フランス	その他
宿泊客数（千人）	1980	19,153	5,274	13,879	8,518	1,255	370	507	317	398	554	474	1,487
	1985	20,618	5,451	15,168	8,145	1,247	498	796	535	339	988	665	1,955
	1990	25,257	6,246	19,011	9,419	1,345	783	935	1,185	446	885	837	3,176
	1995	24,175	7,002	17,173	10,014	1,128	726	538	821	427	539	564	2,416
	2000	26,378	8,396	17,982	9,990	1,186	737	667	911	349	781	387	2,974
宿泊数（千泊）	1980	118,747	28,544	90,203	65,579	9,768	1,320	2,208	703	2,826	1,333	1,610	4,857
	1985	112,586	27,510	85,076	55,432	9,177	1,876	4,233	1,264	2,245	2,377	2,479	5,994
	1990	123,629	28,841	94,788	56,819	9,112	3,172	4,931	3,091	2,762	2,139	3,076	9,685
	1995	117,115	30,123	86,991	58,430	7,513	2,903	2,716	2,211	2,615	1,328	2,134	7,142
	2000	113,686	31,153	82,534	52,334	7,376	2,892	3,066	2,534	2,035	1,876	1,461	8,961
宿泊数の国別割合（%）	1980	100.0	24.0	76.0	55.2	8.2	1.1	1.9	0.6	2.4	1.1	1.4	4.1
	1985	100.0	24.4	75.6	49.2	8.2	1.7	3.8	1.1	2.0	2.1	2.2	5.3
	1990	100.0	23.3	76.7	46.0	7.4	2.6	4.0	2.5	2.2	1.7	2.5	7.8
	1995	100.0	25.7	74.3	49.9	6.4	2.5	2.3	1.9	2.2	1.1	1.8	6.1
	2000	100.0	27.4	72.6	46.0	6.5	2.5	2.7	2.2	1.8	1.7	1.3	7.9
平均宿泊数（泊）	1980	6.2	5.4	6.5	7.7	7.8	3.6	4.4	2.2	7.1	2.4	3.4	3.3
	1985	5.5	5.0	5.6	6.8	7.4	3.8	5.3	2.4	6.6	2.4	3.7	3.1
	1990	4.9	4.6	5.0	6.0	6.8	4.1	5.3	2.6	6.2	2.4	3.7	3.0
	1995	4.8	4.3	5.1	5.8	6.7	4.0	5.0	2.7	6.1	2.5	3.8	3.0
	2000	4.3	3.7	4.6	5.2	6.2	3.9	4.6	2.8	5.8	2.4	3.8	3.0

注：ベルギーについては1995年までルクセンブルクを含む。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*

第2表　オーストリアにおける宿泊客の居住地にみられる冬・夏半期差（1989/90年・1999/2000年）

指標	半期		合計	オーストリア	外国 小計	ドイツ	オランダ	スイス	イギリス	イタリア	ベルギー	合衆国	フランス	その他
宿泊客数（千人）	冬半期	1989/90	9,440	2,447	6,993	3,739	682	250	397	455	186	177	170	937
		1999/2000	11,668	3,454	8,214	4,947	703	271	263	366	178	160	130	1,196
	夏半期	1990	15,594	3,737	11,857	5,569	654	527	542	724	255	715	663	2,208
		2000	14,482	4,903	9,579	4,982	445	455	390	522	165	610	262	1,748
宿泊数（千泊）	冬半期	1989/90	48,847	10,917	37,930	22,244	4,706	1,097	2,487	1,206	1,173	558	773	3,686
		1999/2000	53,416	12,737	40,679	25,963	4,498	1,149	1,386	940	1,056	478	541	4,668
	夏半期	1990	73,903	17,769	56,134	33,958	4,324	2,055	2,472	1,849	1,558	1,604	2,295	6,019
		2000	59,645	18,350	41,295	26,214	2,673	1,719	1,640	1,547	951	1,375	939	4,237
宿泊数の国別割合（%）	冬半期	1989/90	100.0	22.3	77.7	45.5	9.6	2.2	5.1	2.5	2.4	1.1	1.6	7.5
		1999/2000	100.0	23.8	76.2	48.6	8.4	2.2	2.6	1.8	2.0	0.9	1.0	8.7
	夏半期	1990	100.0	24.0	76.0	45.9	5.9	2.8	3.3	2.5	2.1	2.2	3.1	8.1
		2000	100.0	30.8	69.2	44.0	4.5	2.9	2.7	2.6	1.6	2.3	1.6	7.1
平均宿泊数（泊）	冬半期	1989/90	5.2	4.5	5.4	5.9	6.9	4.4	6.3	2.7	6.3	3.2	4.5	3.9
		1999/2000	4.6	3.7	5.0	5.2	6.4	4.2	5.3	2.6	5.9	3.0	4.2	3.9
	夏半期	1990	4.7	4.8	4.7	6.1	6.6	3.9	4.6	2.6	6.1	2.2	3.5	2.7
		2000	4.1	3.7	4.3	5.3	6.0	3.8	4.2	3.0	5.8	2.3	3.6	2.4

注：冬半期は1989年の11月から1990年4月までまたは1999年の11月から2000年4月まで，夏半期は1990年の5月から10月までまたは2000年の5月から10月までを示す。ベルギーについては1989/1990年ではルクセンブルクを含む。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*



第6図　オーストリアの郡別にみた宿泊数の居住地構成（2000年）
注：宿泊数50万以上の郡のみ表記。宿泊数の割合が10%未満の出発国はその他に含まれる。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich*

またオーストリアにおける人口が著しく東に偏って存在するためである。オーストリア西部では，ドイツ人とオランダ人を中心に多くの外国人宿泊客が卓越する。また，ウィーン，ザルツブルクおよびインスブルックといった都市では，その他の外国人やアメリカ人が目立つといった特徴を有する。都市観光地として，さまざまな地域から多くの観光客を誘引するとともに，ビジネス関係の宿泊も多いためである。

3）滞在期間の変化

上で若干触れたように，近年のオーストリアにおいては，宿泊客の滞在日数にみられる減少が顕著である。既に示した第1表によると，宿泊客数全体について1980年では，平均宿泊数は6.2泊であったが，2000年には4.3泊へと減少している。この傾向はオーストリア人でもみられ，2000年には3.7泊にまで減少している。外国人の場合，オーストリア人よりは一般に滞在

期間は長いものの，1980年の6.5泊から2000年には4.6泊まで減少している。国別にみると，オランダとベルギーからの宿泊客の滞在が長い。両国からは，キャンピングカーなどを利用した長期滞在の旅行が卓越する。これにドイツ，イギリスの順で続いている。しかしその変化に注目すると，ドイツ，オランダといった宿泊数の多い国からの宿泊客の滞在が短縮されている。

半期別では（第2表），冬半期の平均宿泊数がやや長いものの，最近10年間では減少している。国別にみると，冬半期・夏半期ともにほとんどの国で減少している。とくにドイツ，オランダ人の平均宿泊数の減少が顕著である。

第7図と第8図は，1989/90年と1999/2000年における宿泊客の平均宿泊数をそれぞれ郡別に示したものである。1989/90年では，ケルンテンの湖沼地域において平均宿泊数で7泊を超えており，この地域で滞在期間が長いことがわかる。この傾向は1999/2000年でも同様であるが，その泊数は平均7泊未満と短くなっている。オーストリア西部のアルプス高山地域では，1989/90年に一部の郡で6泊を超えていたが，1999/2000年になると，全ての郡で6泊未満へと減少している。以上の地域ではアルプスの山岳や湖沼を観光資源として比較的長期滞在がなされるが，一方都市地域では訪問客の滞在期間が短い。ウィーンでは観光資源が豊富なこともあって平均宿泊数は2.5泊前後であるが，ザルツブルク，インスブルック，グラーツでは2泊以下である。これらの都市観光地では，1990年から2000年にかけての滞在期間の変化はほとんどない。すなわち，最近10年間ではアルプスの高山地域や湖沼地域において滞在日数の減少が生じていることが明らかである。

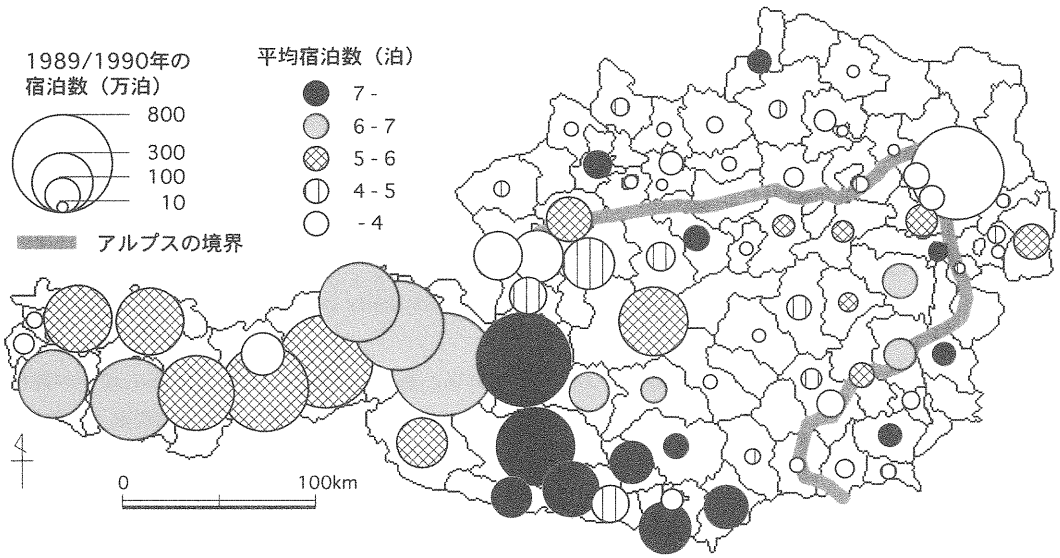
3．観光地域の変化

1）宿泊施設の変化

以上のような観光客数の変化と同時に，1990年から2000年にかけて，観光地域においてもさまざまな変化がみられると考えられる。ここでは，なかでも宿泊施設について分析を進める。

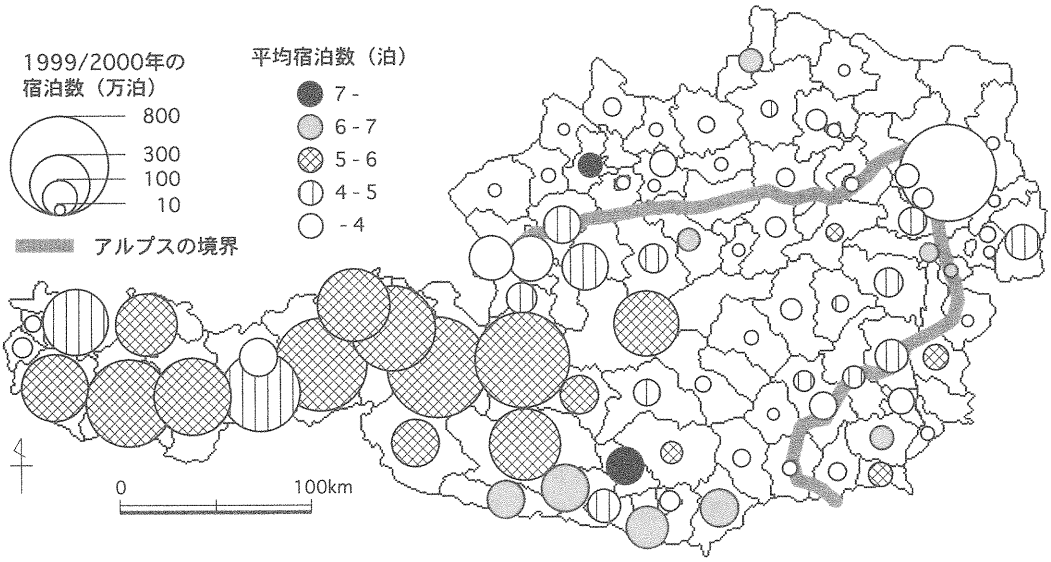
オーストリアにおける宿泊施設については，冬半期と夏半期にそれぞれ調査がなされ，その結果が公表されている。一般的には，夏半期において，宿泊施設数およびベッド数について冬半期のそれを上回っている。これは，前述した湖沼地域をはじめとして，オーストリア東部において冬半期に営業しない宿泊施設が多いためである。一方，オーストリア西部では，施設数・ベッド数ともに冬・夏半期による差異は小さい。

まず，オーストリア全国における変化に注目する。第3表は夏半期，第4表は冬半期における宿泊施設数とベッド数について種類別にその変化を表したもので



第7図　オーストリアの郡別平均宿泊数（1989/90年）

注：宿泊数10万以上の郡のみ表記。1989/90年は1989年11月から1990年10月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Fremdenverkehr in Österreich*



第８図　オーストリアの郡別平均宿泊数（1999/2000年）

注：宿泊数10万以上の郡のみ表記。1999/2000年は1999年11月から2000年10月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich*

第３表　オーストリアにおける宿泊施設の変化
（夏半期；1990～2000年）

施設の種類			施設数 1990	施設数 2000	ベッド数 1990	ベッド数 2000
一般施設	営業施設（11ベッド以上）	4・5星	1,389	1,769	135,653	176,813
		3星	5,168	5,718	218,182	225,649
		2・1星	12,849	7,594	296,724	166,882
		小計	19,406	15,081	650,559	569,344
	小規模施設（10ベッド以下）	非農家立地	33,627	19,582	211,760	128,052
		農家立地	11,959	8,034	84,608	57,818
		小計	45,586	27,616	296,368	185,870
休暇用住宅		11ベッド以上	*	2,291	*	53,402
		10ベッド以下(非農家)	*	22,225	*	144,980
		10ベッド以下(農家)	*	4,210	*	30,506
		小計	18,255	28,713	122,883	228,732
その他			2,399	2,594	90,061	86,881
合　計			85,646	74,024	1,159,871	1,072,431

注：両年ともに５月から10月までを示す。*はデータなし。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*

第４表　オーストリアにおける宿泊施設の変化
（冬半期；1989/90～1999/2000年）

施設の種類			施設数 1989/90	施設数 1999/2000	ベッド数 1989/90	ベッド数 1999/2000
一般施設	営業施設（11ベッド以上）	4・5星	1,269	1,811	127,271	179,566
		3星	4,498	5,477	190,932	217,696
		2・1星	11,164	6,971	255,911	153,030
		小計	16,931	14,259	574,114	550,292
	小規模施設（10ベッド以下）	非農家立地	24,792	16,173	157,080	104,921
		農家立地	8,932	6,802	63,277	47,838
		小計	33,724	22,975	221,085	152,759
休暇用住宅		11ベッド以上	*	2,079	*	47,732
		10ベッド以下(非農家)	*	19,326	*	127,436
		10ベッド以下(農家)	*	3,721	*	26,560
		小計	13,723	25,113	95,178	201,728
その他			1,780	2,025	70,301	73,582
合　計			66,158	64,392	960,678	978,361

注：1989/90年は1989年11月から1990年４月までを，1999/2000年は1999年11月から2000年４月までを示す。*はデータなし。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*

ある。ただし，キャンプ施設については，施設数およびベッド数の有する意味が他の宿泊施設と大きく異なるために，この表の集計値からは除いた。ちなみにキャンプ場には，夏半期で約20万ベッド，冬半期で約10万ベッド分のスペースが存在する。

夏半期では，施設数・ベッド数ともに減少が顕著である。1990年から2000年にかけて，１万を超える施設が減少しており，またベッド数の減少幅も10万弱になっている。施設の種類別にみると，最も減少が著しいのは，10ベッド以下の施設である小規模宿泊施設である。施設数で約１万８千，ベッド数では11万の減少がみられた。同様に，11ベッド以上の施設である営業施設の縮小も進んでいる。しかしながら，この営業施設の内訳に注目すると，ホテルなどに代表される３星以上の施設では増加がみられるのに対し，２星以下の比較的安価な施設では減少が著しい。こうした減少の一方で，

休暇用住宅 Ferienwohnungen の増加が目立っている。休暇用住宅とは，コテージのように1戸建ての場合もあるが，多くの場合は家屋内に設置され，次のような特徴をもつ（呉羽，2001）。すなわち，休暇用住宅の内部には寝室，居間，台所，バス・トイレなどが存在する。台所には，冷蔵庫や調理器具をはじめ，食器，鍋なども備え付けられ，自炊が可能となっている。部屋の規模は，2人から6人程度のものが多く，その人数に対応したベッドがある。一般に，1週間以上の滞在客のみに提供している場合が多い。宿泊客滞在中は，経営者はその部屋に入らず，掃除もしないため，経営者にとってみると，休暇用住宅は労働時間の短縮につながる。また，自炊客が中心であるので，朝食の準備にかかる時間も軽減される。逆に，宿泊客にとってもプライベート保持の点や，自由に食事ができるなどの点から好まれている。そのため，1970年代から増加傾向にある。1980年代初めには約7千施設，5万ベッドであったものが，2000年には夏半期で約2万9千施設，23万ベッドにまで増加している。

一方，冬半期では（第4表），夏半期とはやや異なった変化を示す。1989/90年から1999/2000年にかけて施設数では若干の減少がみられるものの，ベッド数では逆に増加している。宿泊施設の種類に注目すると，夏半期と全く同様の傾向である。すなわち，小規模施設と2星以下の営業施設の減少，3星以上の営業施設および休暇用住宅の増加である。しかし，夏半期に比べて減少の程度が小さく，さらに増加の程度は大きい。その結果として，ベッド数全体にみられた増加をもたらしている。

このように，夏半期・冬半期ともにより高級な宿泊施設と休暇用住宅の増加が顕著である一方，廉価な宿泊施設の減少が目立つことが大きな特徴であろう。

2）宿泊施設の地域的変化

次に，こうした宿泊施設の変化について，その地域差を分析する。第5表は夏半期，第6表は冬半期におけるベッド数について種類別に，さらに州別にその変化を表現したものである。ここでも，第3表や第4表と同様にキャンプ施設は除いた。ベッド数の州別分布からみた傾向としては，チロル州に全体の3割程度が集中していることが特徴である。これにザルツブルク州，ケルンテン州と続いている。

夏半期では（第5表），ケルンテン州における減少が最も顕著である。1990年から2000年にかけての10年間で約4万ベッドを減少させている。これに次いで，チロル州で約2万ベッド，オーバーエスターライヒ Oberösterreich 州とザルツブルク州でそれぞれ約1万ベッドの減少が認められる。その他の州では減少幅は小さい。一方，ウィーンとブルゲンラント州では増加がみられた。施設の種類別内訳に注目すると，全国的傾向である小規模宿泊施設の縮小と休暇用住宅の増加が，ウィーンを除いた全ての州で認められる。休暇用住宅の増加については，とくに，ケルンテン州とオーストリア最西端のフォアアールベルク Vorarlberg 州で顕著であり，ベッド数からみた割合は2000年でいずれも30%を超えている。先に述べたように，11ベッド

第5表　オーストリアにおける州別ベッド数の変化（夏半期；1990～2000年）

年	指標	宿泊施設の種類		ブルゲンラント	ケルンテン	ニーダーエスターライヒ	オーバーエスターライヒ	ザルツブルク	シュタイヤーマルク	チロル	フォアアールベルク	ウィーン	オーストリア
1990	総ベッド数(ベッド)			20,364	201,117	66,125	86,418	202,730	101,932	367,047	74,699	39,439	1,159,871
	種類別割合（%）	一般施設	営業施設(11ベッド以上)	59.9	52.6	66.2	53.7	51.2	54.8	57.3	45.1	97.0	56.2
			小規模施設(10ベッド以下)	22.8	25.2	19.2	24.9	26.5	28.5	28.9	24.1	0.3	25.6
		休暇用住宅		6.9	16.4	1.9	5.9	10.9	4.1	10.4	23.8	0.0	10.6
		その他		10.4	5.8	12.7	15.5	11.4	12.6	3.4	7.0	2.7	7.8
2000	総ベッド数(ベッド)			21,700	161,988	61,804	76,189	192,578	100,361	347,422	68,556	41,833	1,072,431
	種類別割合（%）	一般施設	営業施設(11ベッド以上)	59.0	46.7	65.3	55.3	47.6	52.9	52.5	45.5	95.5	53.2
			小規模施設(10ベッド以下)	17.3	17.1	14.4	15.4	18.3	21.5	19.3	14.0	0.6	17.3
		休暇用住宅		14.9	30.6	5.1	11.6	22.6	14.1	24.1	32.9	0.4	21.3
		その他		8.8	5.6	15.2	17.7	11.5	11.5	4.1	7.6	3.5	8.2

注：両年ともに5月から10月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*

第6表　オーストリアにおける州別ベッド数の変化（冬半期；1989/90～1999/2000年）

年	指標	宿泊施設の種類		ブルゲンラント	ケルンテン	ニーダーエスターライヒ	オーバーエスターライヒ	ザルツブルク	シュタイヤーマルク	チロル	フォアアールベルク	ウィーン	オーストリア
1989/90	総ベッド数(ベッド)			8,460	86,852	57,766	63,792	192,805	93,257	348,802	76,115	32,829	960,678
	種類別割合（%）	一般施設	営業施設(11ベッド以上)	72.7	62.9	68.7	61.9	53.5	57.0	60.1	48.3	97.2	59.8
			小規模施設(10ベッド以下)	9.9	17.1	17.2	16.6	24.6	27.5	27.0	22.8	0.2	23.0
		休暇用住宅		0.9	14.8	1.7	4.6	11.0	3.9	10.3	22.9	0.0	9.9
		その他		16.5	5.2	12.4	16.9	10.9	11.6	2.6	6.0	2.6	7.3
1999/2000	総ベッド数(ベッド)			16,401	96,624	58,453	63,705	192,336	94,843	345,868	71,540	38,591	978,361
	種類別割合（%）	一般施設	営業施設(11ベッド以上)	70.3	55.4	68.3	60.2	49.5	55.1	54.3	48.7	95.2	56.3
			小規模施設(10ベッド以下)	9.7	10.5	12.6	12.1	17.1	20.8	18.4	13.1	0.6	15.6
		休暇用住宅		11.1	28.8	4.5	10.0	22.5	14.1	24.2	31.6	0.4	20.6
		その他		8.9	5.3	14.6	17.7	10.9	10.0	3.1	6.6	3.8	7.5

注：1989/90年は1989年11月から1990年4月までを，1999/2000年は1999年11月から2000年4月までを示す。
資料：オーストリア統計局：*Tourismus in Österreich, Fremdenverkehr in Österreich*

以上の施設である営業施設では，2星以下の比較的安価な施設の減少が著しい。全ての州でこの傾向が現れている。さらに，ケルンテン州では3星，および4・5星のベッド数も減少を示している。

一方冬半期では（第6表），フォアアールベルク州で約4500ベッドの減少がみられ，10年間で減少幅が最も大きい。そのほか減少を示す州は，チロル州，ザルツブルク州およびオーバーエスターライヒ州のみである。施設について種類別の内訳をみると，全国的傾向であった小規模宿泊施設の減少と休暇用住宅の増加が，全ての州で認められる。また，夏半期と比較すると，ウィーンを除いた全ての州で，冬半期における営業施設の割合が夏半期のそれを上回っている。これは，冬季における宿泊料金の高さに現れている。もちろん冬季には夏季に比べ光熱費が高いためでもあるが，一般にオーストリアにおける宿泊客の消費額は夏季よりも冬季で多い。Zins（1996）によると，1994年における宿泊客について，1日あたりの消費額は夏季では平均で822シリング（当時1シリングは約10円）であるのに対し，冬季では1225シリングとかなり差異がある。

夏半期と冬半期との比較でベッド数の多寡に注目すると，冬半期で著しくベッド数が少ない州がある。それは，ケルンテン州とブルゲンラント州で，前者は冬半期には夏半期の約60%のベッドのみが，後者では76%のみが供給されているにすぎない。いずれも夏季の観光資源に著しく依存していることを反映したものであろう。しかしながら，ケルンテン州にはいくつかの大規模なスキー場も存在し（Kureha，1995），その結果として，冬半期のベッド数は増加傾向にある（第6表）。

4．まとめ

本研究では，オーストリアにおける1990年から2000年にかけての観光客と宿泊施設の変化について分析してきた。最後にそれらのまとめと，1990年代のオーストリアにおける観光地域の変化について考察する。

観光客数からみると，夏季における大幅な減少と冬季における維持が対照的であった。とくに夏季の減少は，外国人による宿泊数の減少に大きく依存していた。こうしたオーストリアにおける夏季観光の衰退は，外国人観光客に大きく依存していること，および他の地域との競合が存在していることと大きな関連があると考えられる。前者については，オーストリアが小国で人口も少ないにもかかわらず，多くの観光資源を有しているためである。外国人観光客が多いことで，彼らの余暇行動の嗜好に左右されやすい。後者については，夏季休暇における訪問先は，多くの場合，海岸や湖岸となる。ヨーロッパにおいては，その南部に海岸が非常に多く，それらの地域は夏季休暇の目的地となっている。一方，オーストリアの湖沼地域や山岳地域では，これらの地域に比べ魅力に欠けるため，また相対的に価格も高いため，客離れがやや進んだと考えられる。この結果，ドイツ人やオランダ人を中心とした外国人宿泊客が減少している。こうした傾向は，とくに湖沼地域において顕著であった。

こうした競合の点からすると，冬季観光はオーストリアにとって有利である。一般に冬季休暇の目的はスキーを中心とした冬季スポーツである。ヨーロッパでは，その目的地はほぼアルプスに限られており，競合の面からみると夏季に比べてかなり小さい。さらに，アルプスを有する国々のなかでもオーストリアは，フランスやスイスに比べると滞在費用が安い。したがって，ドイツやオランダなどの外国からある程度の宿泊客を維持できていると考えられる。また，東欧改革以後，当該地域からオーストリアへの宿泊客が冬季にかなり増加している（呉羽，1997)。冬季観光については，こうした新たな観光客市場が出現した影響も大きい。また日本と比べると，1990年代にスキー人口が大幅に減少した日本（呉羽，2002）に対して，ヨーロッパではそれが有る程度維持されており，その結果として，オーストリアにおける冬半期の宿泊数の維持につながっている。

宿泊客の全般的な減少には，2000年２月に成立した新政権の影響が存在することも否定できない。新政権には国内で躍進しつつあった極右政党である自由党が参加した。こうした動きに対して，他のEU諸国が猛反発し，オーストリアへの旅行が敬遠され，2000年の観光客数にはその影響が大きく現れている。

宿泊客の滞在日数は，1990年代に大きく減少した。夏半期では平均で4.1泊，また冬半期では4.6泊まで減少が進んだ。こうした減少傾向は，オーストリア全体でみられた。一般には，夏季休暇は冬季休暇に比べて期間が長い。すなわち，夏季に長期の休暇を取得し，冬季には２次的な短期の休暇をとる。しかしながら，オーストリアでは，夏季において短期化が顕著である。オーストリアを訪れる最大の出発国であるドイツにおいては，休暇旅行の期間短縮が進んでいる。また，航空機利用の休暇旅行の増加が著しい。ドイツの観光研究機関である観光研究所 Studienkreis für Tourismus および休暇・旅行研究所 Forschungsgemeinschaft Urlaub und Reisen の調査によると，1990年では，20%の休暇旅行（４泊以上）が交通手段として航空機を利用したものであったが，2000年にはそれが35%にまで上昇している。すなわち，より遠隔の地域への休暇旅行が増加している。その一方で，オーストリアへの旅行は，夏季と冬季ともに旅行者にとっての第２・第３の休暇旅行へと移行していると考えられる。ウィーン経済大学オーストリア応用観光科学研究所 Österreichische Gesellschaft für angewandte Fremdenverkehrswissenschaft は，オーストリアにおける宿泊客へのアンケート調査を定期的に行っている。これによると，1991年，第２・第３の休暇旅行としてオーストリアに滞在した宿泊客の割合は27.9%であったが，1994年には31.5%へ，さらに1997年には33%へと増加している。この結果として滞在期間の短縮化が進行していると思われる。

宿泊施設については，低廉な施設の減少とともに，より高級な施設と休暇用住宅の増加が特徴として認められた。これは，宿泊客が減少傾向にあるなかで，ある層の観光客に焦点を絞って経営を行ってきた結果であると考えられる。それが，宿泊施設の高級化に現れており，4・5星といった高級ホテルでのベッド増加にみられた。また観光客の要求に応え，かつ経営の合理化をもたらす休暇用住宅の増加がみられた。その一方で，減少が顕著であった小規模宿泊施設などの低廉な宿泊施設は，今後もある程度の淘汰は進むものと思われる。しかしながら，こうした施設は，呉羽（2001）が東チロルの例で示したように，農業と観光業の共生システムの維持に大きく貢献していくと考えられ，ある程度は存続していくのであろう。

1990年代のオーストリアにおいて，観光は停滞期を迎えた。しかしながら，これには季節差も存在し，また地域的差異も存在する。とくに，夏季観光を主体としてきた湖沼地域では衰退が目立った。一方，一般に夏季・冬季ともに観光客が滞在するアルプスの高山地域では，冬季観光の維持傾向に大きく依存している状況である。さらに都市観光地では，ウィーンの発展が目立った。一方，これ以外の地域では依然として観光客が非常に少ない。

一般に，ある観光地域において観光客が無限に増加することはあり得ない。日本の観光地域おいても同様であり，多くの地域において既に衰退傾向もみられる。そうした観光地域を今後どのように考えていくかについて，オーストリアの例は有る程度参考になると思われる。この点でも，オーストリアの観光が今後どのような変化を示すのかが注目される。

この小論を，平成14年３月に愛媛大学法文学部を定年退官された深石一夫教授に謹んで捧げたい。呉羽が最初に深石教授と初めて出会ったのは1993年夏のオーストリアであった。その意味もあって本稿をまとめた次第である。筆者の愛媛大学奉職時代も含め，

深石教授には公私にわたり大変お世話になっている。ここに記して感謝申し上げる。

文　献

池永正人（1999）：オーストリアアルプスにおける山岳観光の発展と山地農民の対応―チロル州フィス村を事例として―．人文地理，**51**，598-615.

池永正人（2000a）：オーストリアアルプス・シュミルン村における山岳観光の発展と山地農民の対応．日本観光学会誌，**36**，13-28.

池永正人（2000b）：オーストリアアルプス・レンゲンフェルト村における山岳観光の発展と山地農民の対応．新地理，**48**，17-36.

池永正人（2001）：オーストリアアルプス・ヒンターホルンバッハ村におけるアルム利用の推移とエコツーリズム．人文地理，**53**，556-573.

池永正人（2002）：オーストリア・チロル州における山岳観光地の動向．駒沢地理，**38**，53-67.

浮田典良（2000）：観光統計とガイドブックを通じてみたオーストリア．人文学部紀要（神戸学院大学），**20**，1-19.

呉羽正昭（1997）：オーストリアにおける中欧東部地域からの宿泊客の滞在パターンとその変化．愛媛大学法文学部論集人文学科編，**3**，123-139.

呉羽正昭（2001）：東チロルにおける観光業と農業の共生システム．地学雑誌，**110**，631-649.

呉羽正昭（2002）：日本におけるスキー人口の地域的特徴．人文地理学研究，**26**，103-123.

黒岩達介（1996）：産業としての観光．大西健夫・酒井晨史編『オーストリア：永世中立国家』早稲田大学出版部，116-135.

ツィンマーマン著，秋葉明訳（1992）：オーストリア：対照的な観光シーズンと対照的な観光地域．廣岡治哉監訳『観光と経済開発－西ヨーロッパの経験』成山堂，176-197. Zimmermann, F., Austria: contrasting tourist seasons and contrasting regions. In: Williams, A.M. and Shaw, G. eds.: *Tourism and economic development: western european experiences,* 2. ed., Belhaven, London, 1991, 153-172.

山村順次（1993）：オーストリアにおける温泉地の地域的展開．日本観光学会研究報告，**25**，2-10

横山秀司（1999）：オーストリアのティロール州におけるソフト・ツーリズムとRuhegebiet（静かな保養地域）．九州産業大商経論叢，**40**-3，153-183

Eder, P. (1991): Raum-zeitliche Dynamik der touristischen Nachfrage in der Steiermark. In: Leitner, W. Hrsg.: *Festschrift für H. Paschinger zum 80. Geburtstag.* Graz, 67-88 (= Arbeiten aus dem Institut für Geographie der Universität Graz, Bd. **30**).

Haimayer, P. (1984):Tourismus im Alpenraum. *Geographische Rundschau,* **36**, 417-423.

Haimayer, P. (1988): Räumliche Strukturen und Prozesse des Tourismus in Tirol. *Österreich in Geschichte und Literatur mit Geographie,* **32**, 103-119.

Hofmayer, A. und Jülg, F. (1989): Typisierung von Fremdenverkehrsgemeinden Österreichs: ein Beitrag zur kartographischen Darstellung des Fremdenverkehrs aufgrund der Ergebnisse einer Clusteranalyse. *Wiener Schriften zur Geographie und Kartographie,* **3**, 132-149.

Kureha, M. (1995): *Wintersportgebiete in Österreich und Japan.* Innsbruck, 188S. (=Innsbrucker Geographische Studien, Bd. **24**).

Lichtenberger, E. (1976): Der Massentourismus als dynamisches System: das österreichische Beispiel. In: Uhlig, H. und Ehlers E. Hrsg.: *Tagungsbericht und wissenschaftliche Abhandlungen, 40. Deutschen Geographentag Innsbruck 1975,* Wiesbaden, 673-695.

Strenzel, M. (1988): Aspekte des Fremdenverkehrs im Land Salzburg: Image, Wirtschaftseffekte, Entwicklungen und Probleme. In: Riedl, H. Hrsg.: *Beiträge zur Geographie von Salzburg.* Salzburg, 209-235 (= Salzburger Geographische Arbeiten, Bd. **17**).

Zimmermann, F. (1984): Probleme und Perspektiven des Fremdenverkehrs in Kärnten. *Österreich in Geschichte und Literatur mit Geographie,* **28**, 113-139.

Zimmermann, F. (1985): Der Fremdenverkehr in Österreich: Skizze einer praxisorientierten räumlichen Fremdenverkehrsforschung aus geographischer Sicht. In: Backé, B. und Seger, M. Hrsg.: *Festschrift zum 60. Geburtstag von Dr. Elisabeth Lichtenberger,* Klagenfurt, 253-284 (= Klagenfurter Geographische Schriften, H. **6**).

Zimmermann, F. (1987): Aktuelle Tendenzen des Tourismus in den österreichischen Alpen, *Zeitschrift für Wirtschaftsgeographie,* **31**, 106-117.

Zimmermann, F. (1988): Phenomena and types of tourism in Austria: results of a multivariate analysis. In: Lichtenberger, E. and Pécsi, M. Eds.: *Contemporary essays in austrian and hungarian geography,* Akadémiai Kiadó, Budapest, 171-183.

Zimmermann, F. (1994): Strukturprobleme bei traditionnellen Tourismusprodukten: (K)ein Weg aus der Krise im Kärntner Sommertourimus? *Österreich in Geschichte und Literatur mit Geographie,* **38**, 351-365.

Zimmermann, F. (1995): Tourismus in Österreich. *Geographische Rundschau,* **47**, 30-37.

Zimmermann, F. (1998): Austria: a contrasting tourist seasons and contrasting regions. In: Williams, A.M. and Shaw, G. eds., *Tourism and economic development: western european experiences,* 3. ed., Wiley, Chichester, 175-197.

Zins, A. H. (1996): *Reiseausgaben im österreichischen Tourismus.* Österreichischer Wirtschaftsverlag, Wien, 373S.